

松村一人 まつむら 哲學者。明治二十八年七月十一日山口縣生れ、昭和五十二年六月二十一日歿（一九〇五—七七）。筆名原田武、山本三郎、岩崎二郎、岩崎勝人。昭和八年東京帝國大學文學部哲学科卒。プロレタリヤ科學研究所、唯物論研究會等で活動。戰後日本共産黨に入党。主體性論等では梅本克己を批判。三十九年法政大學教授。マルクス主義者哲學者の代表的人物。

譯著書、シエヴェーグラー著『西洋哲學史』全二冊（谷川徹三共譯、

上巻・昭和十四年九月五日、下巻・十一月九日岩波書店「岩波文庫」）、

『現代觀念論批判』（編、昭和二十二年一月二十日ナウカ社）、『哲

學の現代史』（合著・古存在由重編、昭和二十四年四月十日文化評論

社）、『唯物論と主體性論』（昭和二十四年七月二十日日本評論社）、

『マルクスイズムに對決するもの』批判と反批判』（合著・河野來生編、

昭和二十四年八月十五日労働文化社）、『辯證法とはどういふものか』

（昭和二十五年十一月二十日岩波書店「岩波新書」）、ハーゲル著

『小論理學』全二冊（譯、上巻・昭和二十六年十月五日、下巻・二十

七年一月二十五日岩波書店「岩波文庫」）、『新しい愛國主義』（昭

和二十七年六月一日青木書店「青木文庫」）、『辯證法の發展』（昭

和二十八年五月二十日岩波書店「岩波新書」）、レーニン著『哲學の

一ト』全二冊（譯、第一分冊・昭和二十一年二月二十五日、第二分冊

・十一月五日岩波書店「岩波文庫」）、毛澤東著『實踐論・矛盾論』

（竹内實共譯、昭和二十一年五月二十日岩波書店「岩波文庫」）、エン

ゲルス著『フオイエルバッハ論』（訳、昭和二十五年五月五日岩波書

店「岩波文庫」）、フオイエルバッハ著『將來の哲學の根本命題』一

等。

篇』

（和田寮共説、

昭和四十一年

二月十六日

岩波書店

「岩波文庫」